



公認心理師

実習演習担当教員及び
実習指導者養成講習会

令和7年度厚生労働省事業

公認心理師実習演習担当教員及び 実習指導者養成講習会

2025

レポート

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

CERTIFIED

PUBLIC

PSYCHO

LOGIST

もくじ

はじめに	1
1 講習会の概要	2
2 講習会の申し込み状況	6
3 受講者アンケートについて	10
4 公認心理師の未来に向けて	18
おわりに	22
参考資料	23



はじめに

令和7年(2025年)9月から12月にかけて、3回目となる公認心理師の実習演習指導に関する養成講習会が開催されました。

令和7年度の講習会は、従来の内容をふまえつつ、一部をアップデートした新たなカリキュラムで実施しています。前年度までの実施結果をもとに関連団体と厚生労働省に提出した要望書の内容が、カリキュラム構成に反映されたからです。

私たちは、当初より2つの運営コンセプト——「公認心理師の各種関連団体の先生方、異なるバックグラウンドを持つ先生方と、立場や領域や流派などを超えて、一緒に講習会を作りあげること」、「実習生を送り出す教員の先生方と、現場で受け入れる指導者の先生方がともに学ぶ場にする」と——を掲げてきました。

そのため、新しいカリキュラムへの対応にあたっては、30名ほどの立ち位置の異なる講師陣で話し合いを重ね、講習会のコンテンツを改めて見直しています。結果として各科目においてブラッシュアップが進み、全体としての一体感や完成度もこれまで以上に高まったと感じています。このように、本講習会は準備段階から一貫して前述したコンセプトを体現する形で運営されています。

これまでに本講習会を受けた方の総数は3000人を超え、共通の体験をした教員・指導者の先生方が、会場での学びやその熱気を全国各地の養成現場へと持ち帰って下さっています。3年間にわたる垣根を超えた交流は、少しずつ、だけれども確実に、私たちを取り巻く環境に変化をもたらしているようです。

「実習施設と養成機関の風通しがよくなった」、「大学内での科目間の連携を図る機会になった」、「養成に関わることに喜びや意義を見出せるようになった」。こうしたたくさんの嬉しいフィードバックがその変化を物語っています。

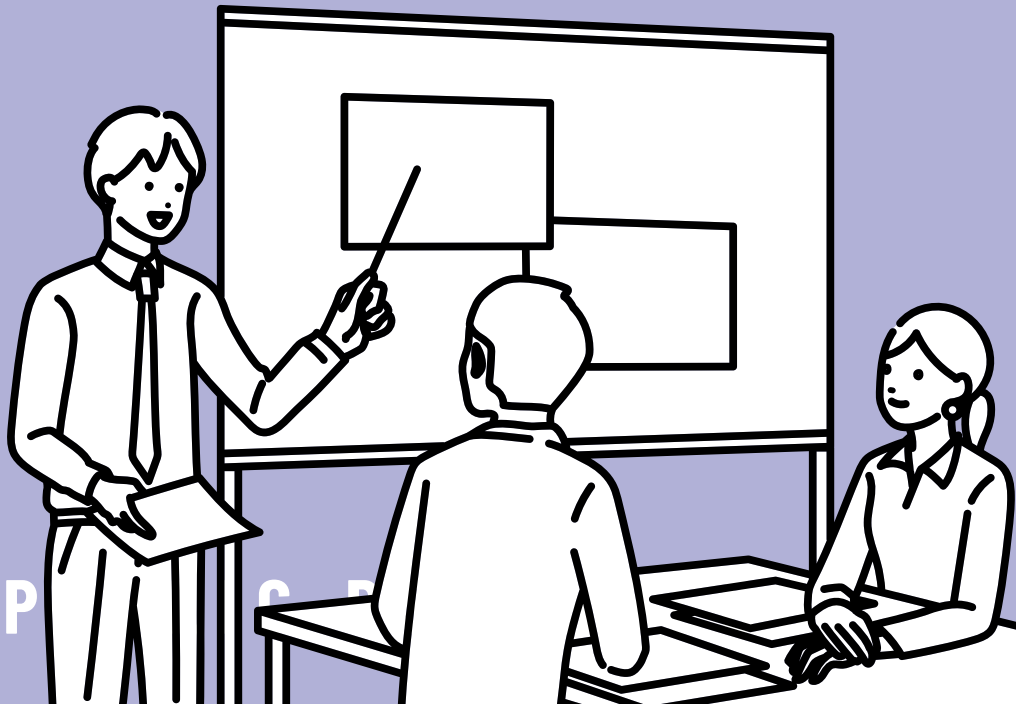
後進の育成という成果や正解がすぐには見えない課題が、講習会の場でワークを重ねる中で、自然と今後の希望や展望へと変換されていく——その様子に、私たちは毎回深い感慨を覚えずにはられません。

講習会レポートを通じ、すでにご参加くださった方にもこれからの参加を検討されている方にも、企画運営に携わるスタッフの思いと、受講者の中で高まった養成への期待感をお届けできれば幸いです。

国立精神・神経医療研究センター病院臨床心理部
臨床心理室長 今村扶美

1 CHAPTER

講習会の概要



CERTIFIED PRACTICE

CHAPTER

1

講習会の
概要

実習演習担当教員 及び 実習指導者 養成講習会について

目的・対象

本講習会の目的は、公認心理師の実習演習指導を行う大学・大学院等の教員(以下、担当教員)や、実習施設側として実習生を受け入れる現場の指導者(以下、実習指導者)の養成です。

本講習会の対象は、公認心理師の資格を取得しており、心理支援の業務に5年以上従事している方や、教員として実習演習の指導経験が一定年数ある方です。

養成における教員・指導者としての役割の共通認識をはかる

養成講習会の目指すところ

学部生・院生それぞれの到達目標を共有し、指導の均一化をはかる

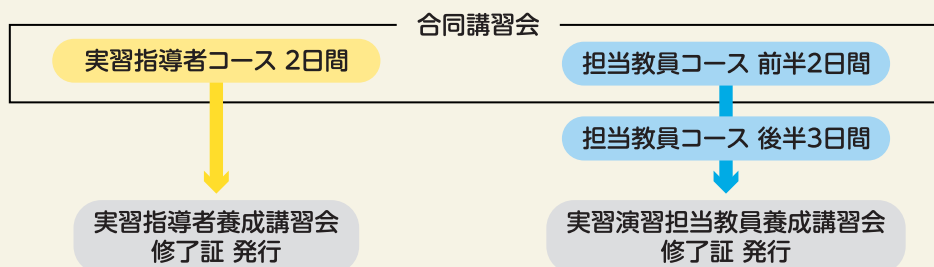
後進育成の意識醸成と実習演習に携わる人材を増やす

この講習会では、実習・演習指導に関する知識やスキルを身につけ、実習生を送り出す側、受け入れる側の両視点を交わしながら、よりよい指導ができるようになることを目的としています。公認心理師を養成するための指導力が向上・均一化し、後進育成のモチベーションを互いに高め、実習演習の裾野を広げていくことを目指しています。

各コースと開催形式

講習会は、厚生労働省の通知に基づき、担当教員コースは前半2日間+後半3日間(12科目;計31.5時間)の計5日間、実習指導者コースは2日間(6科目;計13時間)の受講が必要です。

本講習会では、担当教員コースの前半2日間と、実習指導者コースの2日間を合同開催しました。



また、講習会の一部を、現地参加とオンライン参加を選択できるハイブリッド形式で行いました。

	9月開催	10月開催	11月開催	12月開催
担当教員コース 前半2日間 実習指導者コース 2日間	@東京【ハイブリッド】	@大阪【ハイブリッド】	New! @宮城【ハイブリッド】	
担当教員コース 後半3日間			オンライン	@東京【ハイブリッド】

カリキュラムの改訂 **New!**

令和6年度企画委員会において、講習会の課題抽出および改善策の検討を行い、公認心理師制度推進室へ制度改正に向けた提言および関連団体連名での要望書の提出を行いました。

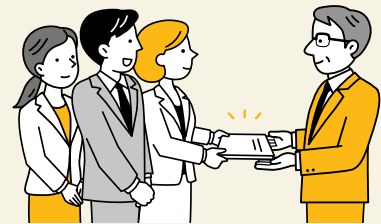
これを受け、講習会に関する告示・通知が改定され、「科目時間数の適正化」や「教員と指導者の合同開催の推奨」など、より実効性の高い運用へとアップデートされました(令和7年4月1日)。

時間数が改定された科目(一部抜粋)

	実習演習指導概論			実習指導方法論Ⅱ			支援の実際		
	講義	演習	計	講義	演習	計	講義	演習	計
改定前	1.5	0.5	2.0	1.5	2.0	3.5	2.5	1.5	4.0
改定後	1.0	1.0	2.0	1.0	2.0	3.0	3.5	1.5	5.0

連名での要望書

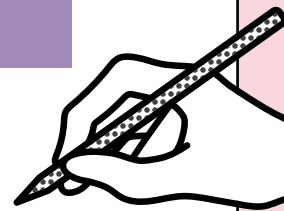
国立精神・神経医療研究センター
日本公認心理師協会 日本心理学会
公認心理師の会 日本心理臨床学会
日本公認心理師養成機関連盟
公認心理師養成大学教員連絡協議会



講習会の様子

講師陣が厳選した実習・臨床・研究等に関連するおすすめ書籍のコーナーを新設しました。書籍を手にする方や、それをきっかけとした受講生同士の交流が見られるなど、新たな学びと繋がりとなりました。





学びを深化させる — 令和7年のアップデート・ポイント —

カリキュラムの改定に伴い、講師陣と事務局が連携し、「受講生の負担軽減」と「学習密度の向上」を両立させるために、以下のアップデートを行いました。

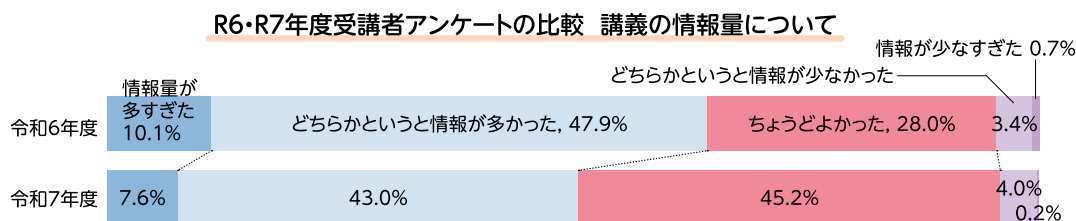
1. 講義や演習の充実化

- 実際の臨床場面や実習指導をイメージしやすいよう、具体例やエピソードを拡充しました。
- グループワークを開始する前に、手順や意図をより丁寧に共有し、受講生がスムーズに話し合いに取り組めるよう工夫しました。

2. 内容の精査・整理

- 他科目との重複内容を整理し、各科目の学習のポイントを明確化しました。
- 動画教材を取り入れ、実践例を提示することで、体験的な理解が進むよう工夫しました。
- 演習回数を絞り、一回あたりの時間を十分に確保することで、受講生同士の対話を積み重ねられるよう工夫しました。

こうした工夫により、受講者アンケートにおける『情報量の適正感』が向上しました。



また、講師や受講生からの好評の声を一部ご紹介します。

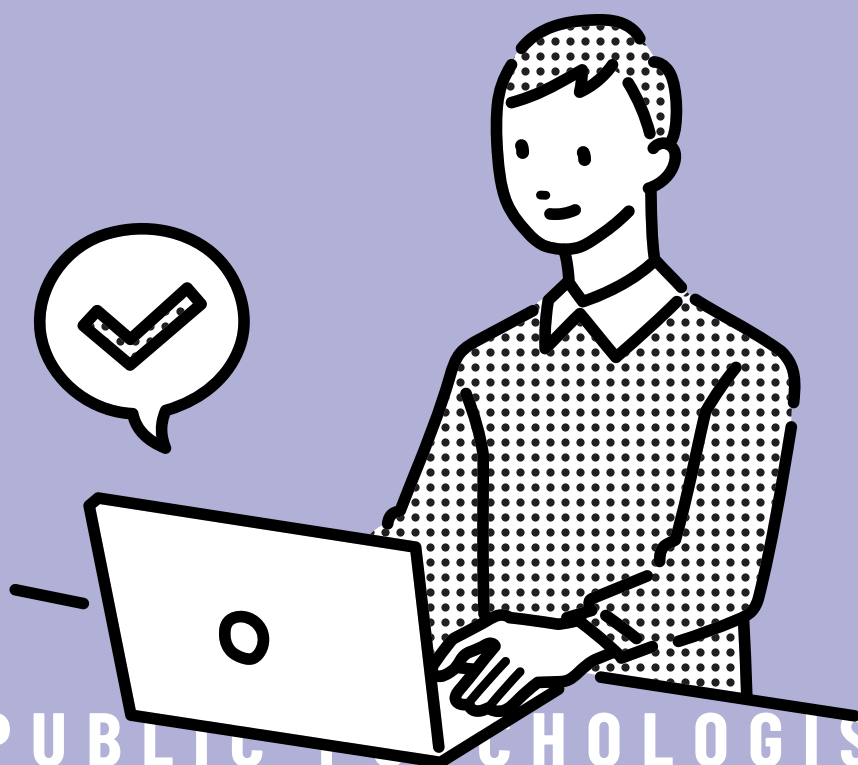
<p> 時間数に余裕が持てたことで、大事な内容をより丁寧に伝えられるようになった。</p>	<p> 毎年バージョンアップされていると聞き、自分自身の教育や指導に向き合う姿勢を考える気持ちになった。</p>
<p> 受講の負担が減り、ポイントが整理されたことで学習効果も高まったのではないかと感じました。</p>	<p> 受講負担に配慮されていると感じ、大変だったが楽しく受講できた。学生はこんな気持ちで実習を受けてるのかも。</p>
<p> 各科目の位置づけや関連性、流れが把握しやすくなり、全体としてのまとまりが高まった。</p>	<p> 資料や講義の進め方など、科目間である程度統一されているので、頭に入りやすかった。</p>

カリキュラム改正のねらいを大切にしながら、受講生の皆さんが自信を持って「実習指導」に向き合えるよう、今後もブラッシュアップを重ねていきたいと考えています。

この講習会が、教員／指導者として、臨床家としての成長を支える場になるとともに、公認心理師制度がより良い形で社会に根づいていくきっかけになれば幸いです。

2 CHAPTER

講習会の 申し込み状況



講習会の
申し込み状況

本講習会は、多くの方々からお申込みを頂きました。どのような方が参加を希望されたのか、本講習会に申し込まれた方の総数や内訳についてまとめた結果をご紹介します。

※本章において、「実習指導者」は実習指導者コース申込者、「担当教員」は実習演習担当教員コース会申込者を指します。

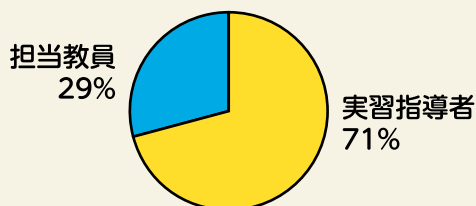
申込者内訳のまとめ

- 両コースで合わせて**1,937名**の方からお申込みいただきました。内訳をみると、「実習指導者」が約7割を占め、「担当教員」よりも多く申し込まれていました。
- 前年同様、**申込者の7割弱の方が既に実習・演習指導を担当している方**でした。
- 年齢構成としては、「実習指導者」「担当教員」とともに**40代を中心とした中堅層が最も多い構成**となっていました。
- 前年度と比較すると、もともとベテラン層が多かった「担当教員」で年齢層がやや下がり、実習指導担当経験のない方の割合が増加している傾向がみられました。

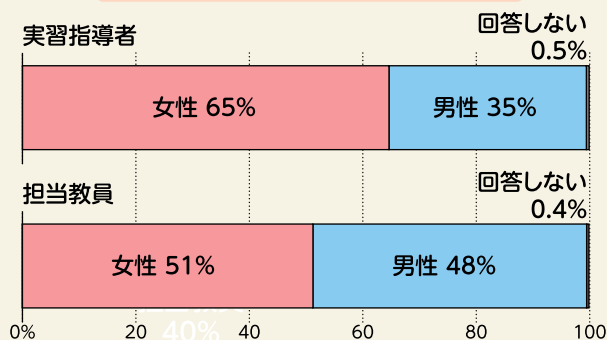
1. 実習指導者と担当教員の内訳

各コース別 申込者総数

■ 実習指導者コース	1,373名(1,713名)
■ 担当教員コース	564名(971名)
合計	1,937名(2,684名) ※()は昨年度



各コース別 申込者総数(男女別)

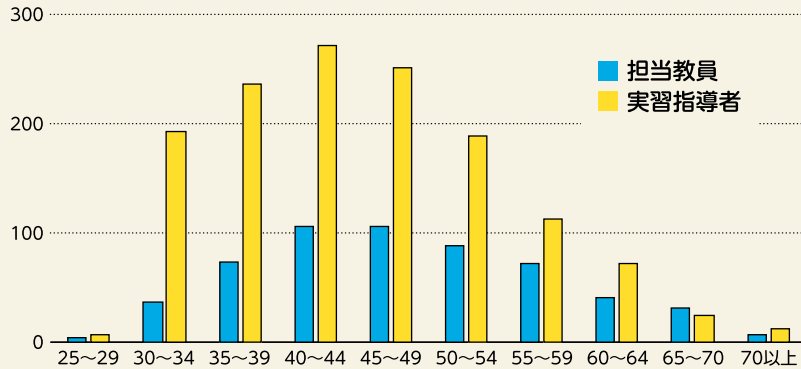


- 「実習指導者」は全体の約7割を占め、「担当教員」の約2.4倍の申込者数でした。
- 前年度と比較して、申込者全体に占める「担当教員」の割合は低下しました。講習会が3年目を迎え、すでに受講済みの「担当教員」が増加していることに加え、「実習指導者」の受講を必要とする層が相対的に多いことが、その要因として考えられました。
- 申込者の男女比は、前年度と同様、「担当教員」の男性の比率が公認心理師の男女比と比べて高い傾向にありました。

(参考:「令和5年度公認心理師活動状況等調査」(一般社団法人日本心理研修センター)、女性73.3%、男性25.3%、回答しない1.3%)

2. 申込者の年齢層

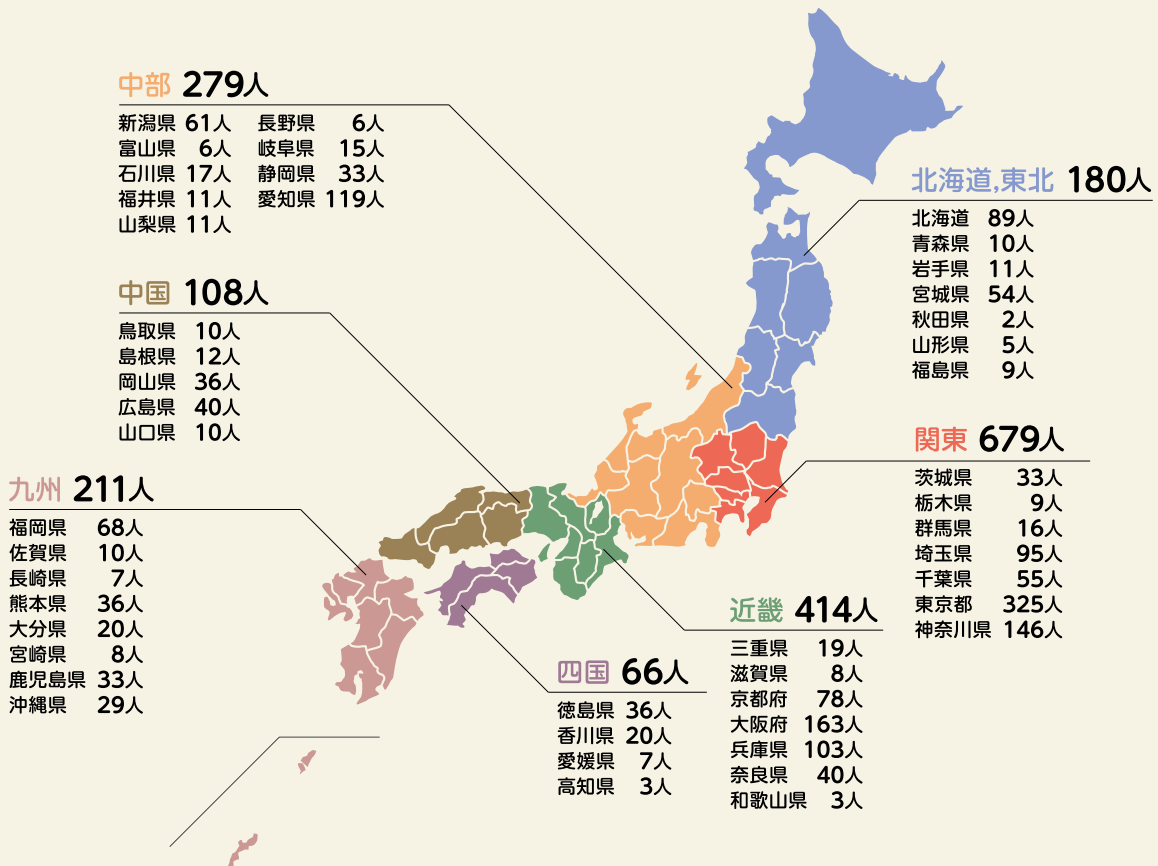
各コース別 申込者年齢層



- 「実習指導者」「担当教員」とともに、40代を中心とした中堅層が最も多い構成となっていました。
- 令和5年度、6年度は、「担当教員」によりベテラン層が多い傾向がみられましたが、今年度は各コースの年齢構成に大きな差はみられませんでした。

3. 都道府県別の申込者数

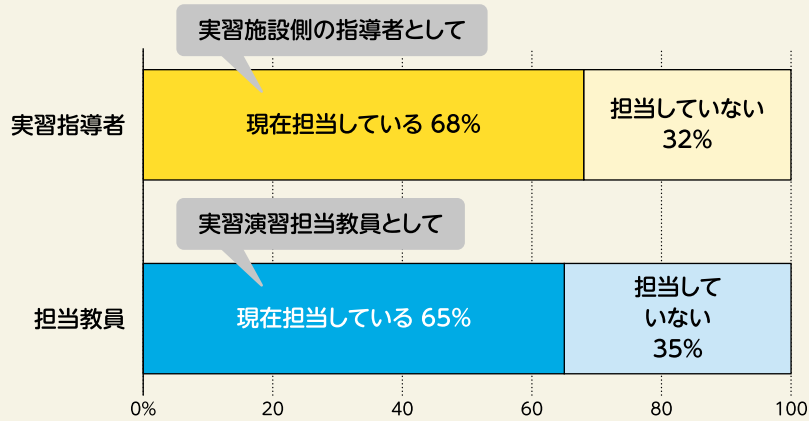
講習会申込者 都道府県別／エリア別 人数



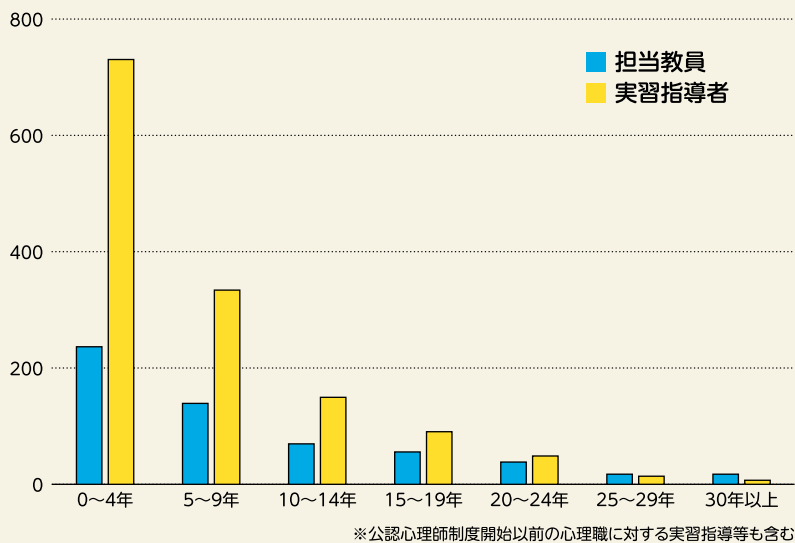
- 首都圏を中心としながらも全国各地からお申込みがありました。
- 都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県、愛知県の順にお申込みが多くありました。

4. 各コース別 実習・演習指導担当の有無／実習・演習指導経験年数

各コース別 実習・演習指導の担当について



各コース別 心理職への実習・演習指導経験年数



- 全体で7割弱の方が、申し込み時点で実習・演習指導を担当していました。
- 実習・演習の指導経験年数については、全体の7割以上の方が「10年未満」でした。特に、「実習指導者」は「0～4年（5年未満）」が5割以上を占めていました。
- 前年度と比較すると、「担当教員」において、実習・演習指導を「担当していない」方の割合がやや増加しました（前年27%→35%）。講習会事業が3年目となり、受講済みの先生方が多くいらっしゃることから、指導経験のない方の申込割合が相対的に増加したと考えられました

3

CHAPTER

受講者アンケートについて



CERTIFIED PUBLIC PSYCHOLOGIST

本講習会では、講習会の受講前後にアンケートを実施しました。講習会の満足度、科目がねらいとする到達目標に関する自信の程度、講習会の内容が適切であったと思うかなどを尋ねています。ここでは、受講者アンケートの一部を抜粋してご紹介します。

※本章において、「実習指導者」は実習指導者養成講習会受講者、「担当教員」は実習演習担当教員養成講習会受講者を指します。

受講者アンケート結果のまとめ

- **回収率** アンケートの回収率は91%と、非常に多くの受講者からご回答を頂きました。
- **満足度** 全体の9割以上の方から肯定的な評価が得られました。
- **自信の変化** 各科目に対する理解や対応する自信について、本講習会の受講前後で有意な上昇がみられました。
- **内容の適切さ** 講習科目について、カリキュラムの到達目標に即した適切な内容であるとの肯定的評価が9割以上でした。
- **公認心理師の養成および業界の発展に対する意識** これらの意識を高く持つ方の割合が受講前後で上昇しました。
- **前年度との比較** 「満足度」「内容の適切さ」は前年度と比べてさらに肯定的な結果でした。「自信の変化」も前年と同様に肯定的な変化がありました。
- カリキュラムの変更に伴い、講義内容のアップデートを行ったことが、肯定的評価の上昇に寄与した可能性が考えられました。

1. 講習会の受講者数／アンケート回収率

本講習会には1,937名の申し込みがあり、応募者多数による抽選の結果、1,076名の方が参加予定となりました。実際の講習会には1,019名の方が参加され、受講者全員にアンケートの協力をお願いしました。

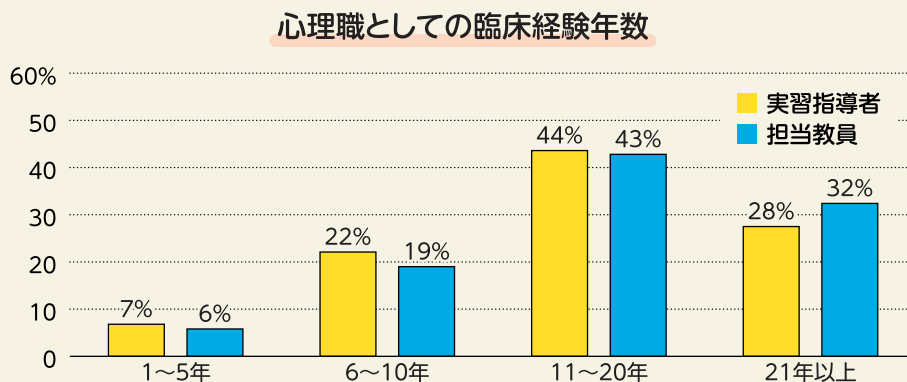
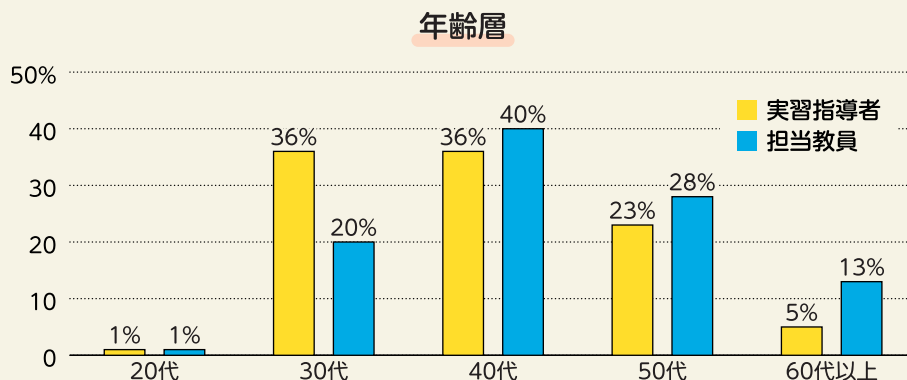
アンケート回収率:91%

	実習指導者 コース	実習演習 担当教員コース	合計
受講者総数 (キャンセル等を除く)	555名	464名	1,019名
受講者アンケート有効回答数 (受講前後共に回答)	530名	395名	925名

- 受講前後アンケート回収率は91%と、非常に多くの方からご回答いただきました。

2. 受講者の属性

① 年齢層と臨床経験年数

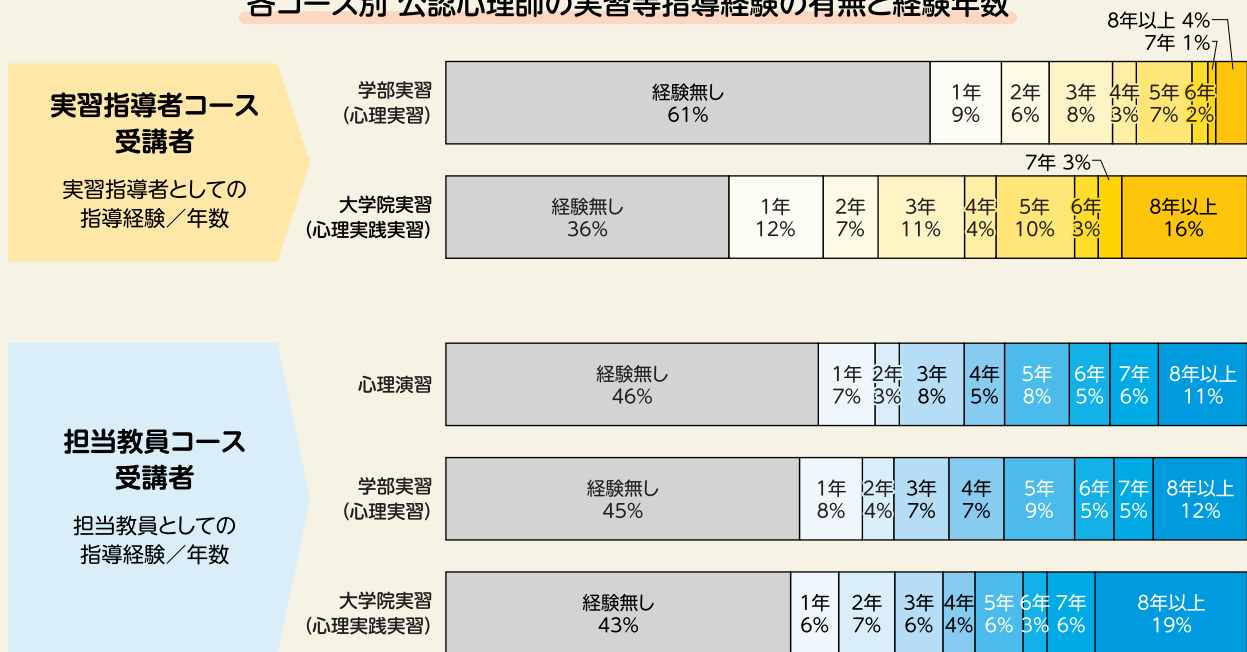


- 年齢層としては、「実習指導者」は30～40代が多く、「担当教員」は40～50代が多い傾向でした。
- 臨床経験年数としては、両コースともに「11年以上経験のある方」が7割以上を占めていました。
- 前年度と比べると、年齢層が「50代～60代以上」、臨床経験年数が「21年以上」の割合が減り、年齢が若い・経験年数が浅い方の割合が増えました。

② 実習・演習指導経験の有無と経験年数

- 公認心理師の養成に関わる、「学部実習(心理実習)」「大学院実習(心理実践実習)」「心理演習」の指導経験の有無・経験年数を尋ねました。結果は各コースの受講者別に整理しています。
- 「実習指導者」では「学部実習(心理実習)」の未経験者が約6割と多く、「担当教員」では各実習の経験の有無に大きな差はありませんでした。
- 前年度と比較すると、「実習指導者」の「大学院実習」を除いた全ての項目で「経験なし」の方の割合が増えています。

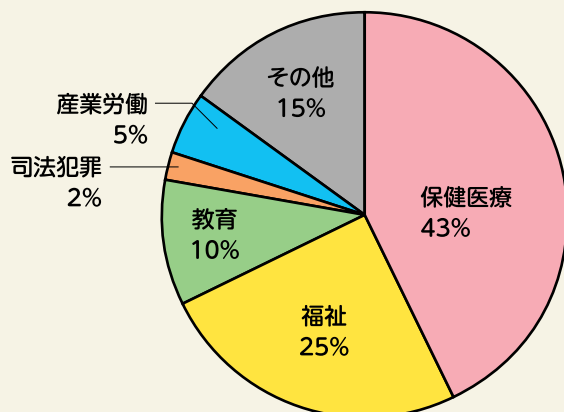
各コース別 公認心理師の実習等指導経験の有無と経験年数



③ 実習指導者の所属機関

実習指導者コース受講者

実習指導している/指導予定である あなたの所属機関



- 「実習指導者」に対し、実習指導をしている/予定している所属機関について尋ねました。
- 前年度と同様に「保健医療」が最も高い割合でした。全体的におおむね前年度と同様の割合でした。

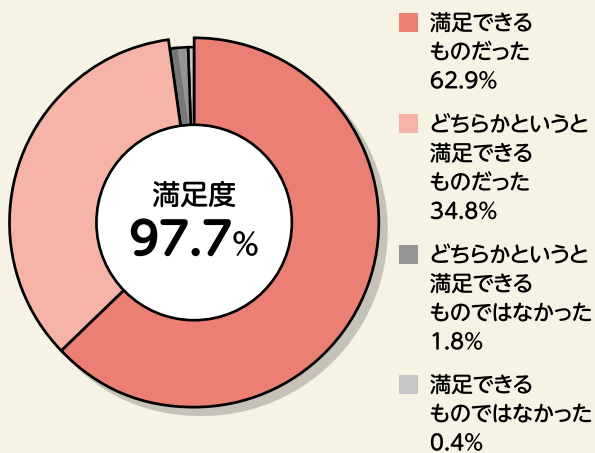
3. アンケート結果

①満足度

- 講習会の満足度を測るため、「満足度」「業務への活用」「キャリアや姿勢・資質を振り返る機会になったか」「他の公認心理師に薦めたいか」を尋ねるアンケートを実施しました。
- 結果: **全体の9割以上の方から肯定的なフィードバック**が得られました。
- 今年度は新たに「公認心理師としてのキャリアや姿勢・資質を振り返る機会になったか」を尋ねる項目を設定しましたが、その設問に対しても95%以上の方が肯定的に評価していました。

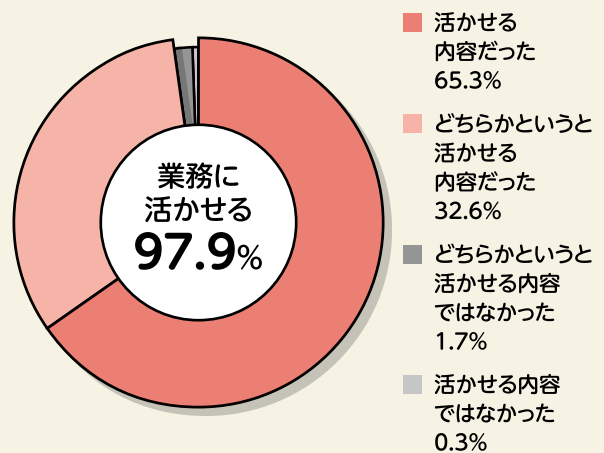
満足度

Q. 講習会の内容は、実習演習担当教員・実習指導者の養成講習会として満足できるものでしたか



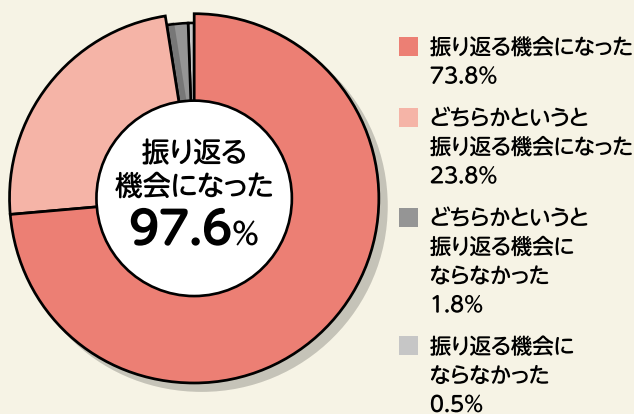
業務への活用

Q. 今後のご自身の実習演習担当教員・実習指導者としての業務に活かせる内容でしたか



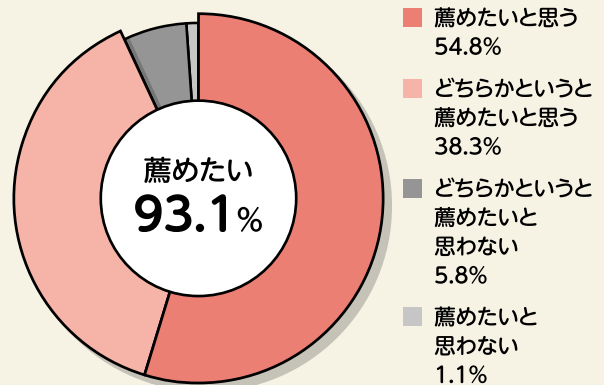
振り返る機会

Q. 今回の講習会は、あなたの公認心理師としてのキャリアや姿勢・資質を振り返る機会になったと思いますか。



薦めたいか

Q. 講習会の受講を他の公認心理師にも薦めたいと思いますか

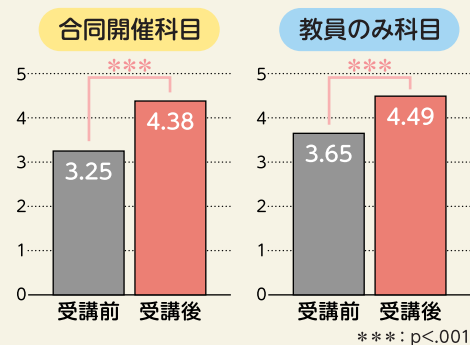


※上記は「満足できるものだった」「どちらかという満足できるものだった」など、肯定的な評価を合算した数値

② 受講前後の自信の変化

- 各科目の到達目標に対する自信の程度が、受講前後で変化するか調べました。
- 質問項目は、実習指導者・担当教員が合同で受講する科目(以下、「合同開催科目」)に関する13項目と、担当教員のみが受講する科目(以下、「教員のみ科目」)に関する11項目の計24項目で構成されています。
- 結果: 「合同開催科目」「教員のみ科目」ともに、**到達目標に対する自信の程度は受講前後で有意に上昇**していました。
- 受講前の平均点は3点台であり、「どちらかという自信がない」水準にありましたが、受講後は平均点が4点台となり、「どちらかという自信がある」水準へと移行していました。
- 前年度と同様、講習会の受講が到達目標に対する自信の向上につながったようでした。

科目別: 受講前後の「自信」の比較



〈質問内容〉

「各科目の到達目標に関する以下の項目について、ご自身が対応できると思う自信の程度を教えてください。受講いただいた科目それぞれについてお答えください」(項目例)「心理支援の現場で求められる公認心理師の責務や資質を理解し、そのために実習・演習を通じて学生が身につけるべき内容・到達目標を理解している」

〈回答形式〉

「十分に自信がある」=6点、「ある程度自信がある」=5点、「どちらかという自信がある」=4点、「どちらかという自信がない」=3点、「あまり自信がない」=2点、「自信がない」=1点、として得点化。

*前年度までは4件法でしたが、今年度は6件法で実施しています。

〈回答者〉

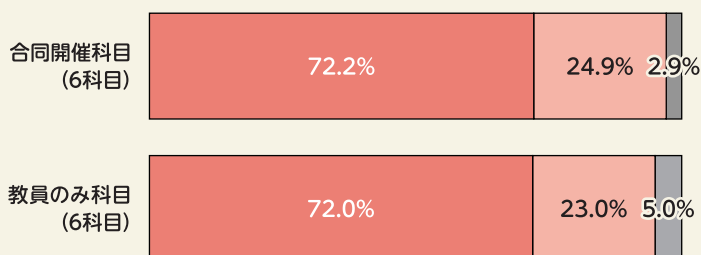
- 「合同開催科目」: 「実習指導者」・「担当教員」ともに回答
- 「教員のみ科目」: 「担当教員」のみが回答

③ 講習内容の適切さ

- 本講習会の各科目が、カリキュラムの到達目標に即した適切な内容であったかどうかを尋ねました。
- 結果: 「合同開催科目」「教員のみ科目」ともに、「**適切な内容だった**」「**どちらかと言うと適切な内容だった**」を合わせた肯定的な評価が9割を占めていました。
- 前年度と比較すると、**より肯定的な評価(「適切な内容だった」)の割合が、両科目ともに60%台から70%台に上昇**していました。カリキュラム変更に伴い、講義内容のアップデートを行ったことが、肯定的評価の上昇に寄与した可能性が考えられました。

科目別: 到達目標に即した適切な内容だったか

- 適切な内容だった
- どちらかと言うと適切な内容だった
- どちらかという適切な内容ではなかった/適切な内容ではなかった



〈質問内容〉

「講習会で受講頂いた科目の内容は、各科目の到達目標に即した適切な内容になっていたと思いますか。受講いただいた科目について、それぞれお答えください」

〈回答形式〉

合同開催科目(6科目)、教員のみ科目(6科目)それぞれの科目について、「適切な内容だった」「どちらかという適切な内容だった」「どちらかという適切な内容ではなかった」「適切な内容ではなかった」の4択で回答

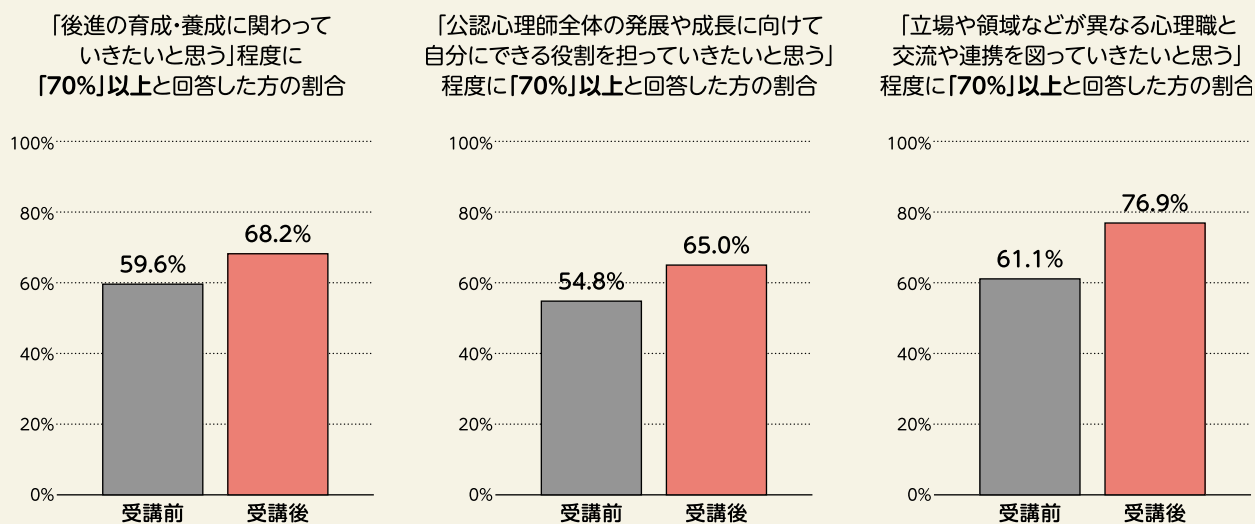
〈回答者〉

- 「合同開催科目」: 「実習指導者」・「担当教員」ともに回答
- 「教員のみ科目」: 「担当教員」のみが回答

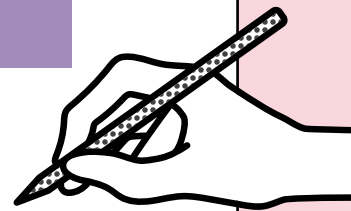
※「合同開催科目」: 「実習指導者コース」および「担当教員コース(前半日程)」の6科目 「教員のみ科目」: 「担当教員コース(後半日程)」の6科目

④公認心理師の養成や公認心理師業界全体の成長・発展などに関する意識

- 公認心理師の養成や公認心理師業界全体の成長などに対して、どの程度関与したいと思うか尋ねました。回答は、0～100%のうち、10%刻みで回答してもらいました。以下は、それぞれの質問に対して、「70%」以上を選んだ方の割合です。
- 結果:公認心理師の養成や業界全体の成長などに関する意識が高い方(70%以上)の割合は、受講前後で上昇していました。
- 講習会受講によって、“公認心理師の養成・育成に関わりたい”、“業界全体の成長・発展に向けて自分にできる役割を担いたい”、“立場や領域を超えて他の心理職と交流や連携を図っていききたい”という意識を高く持つ方が増えたようです。
- 特に、「立場や領域などが異なる心理職との交流や連携を図りたい」と強く感じた方の割合は、受講前後で15ポイント以上上昇し、76.9%と高い値を示しました。講習会における意見交換や交流が、こうした意識の高まりにつながった可能性が考えられます。



講習会前夜 — 学びを支えたワーキンググループ —



木を切るのに6時間与えられたら、最初の4時間は斧を研ぐことに使う
— Abraham Lincoln —

これは、企画や準備段階を充実させることで、実行段階のクオリティを高めることの重要性を示した名言です。

講習会もまた、当日から始まるものではなく、開催に至るまでの準備期間こそが重要です。私たちは、その準備の一環として、これまで何度もワーキンググループを重ねてきました。ワーキンググループでは、近接する科目を担当する講師同士が集まり、講義内容や構成について議論を行います。受講者の学びをどのように支え、何を届けるべきかを問い続けながら試行錯誤を重ね、講習会の質を高めてきました。

初年度は、各科目の到達目標をどのようにすれば達成できるのかを出発点に、講義の構成や進め方について活発に意見を交わしました。講師一人ひとりが自身の経験や考えを持ち寄り、受講者にとって具体的で実践的な内容にするための議論を重ねました。

2年目になると、他の講義とのつながりを意識する視点が育ってきました。初年度に受講者としても参加していた講師が多かったことから、近接する科目間の重複を整理し、科目同士の連動性を意識しながら、受講者目線でより分かりやすい講義内容を吟味していきました。

3年目は、講習会全体を通して統一感のある学びにつなげることを目標に議論を重ねました。それぞれの科目の在り方や位置づけを受講者に分かりやすく伝えることで、学びにまとまりと一貫性が生まれるよう工夫しました。また、心理的安全性を担保したワークの設計についても、丁寧に話し合いました。

事前・事後アンケートでは、すべての科目において「内容が適切であった」とする評価が年を追うごとに高まっています。この結果は、ワーキンググループを通して積み重ねてきた対話と改善の歩みが、確かな学びとして受講者に届いていることを示しているといえるでしょう。

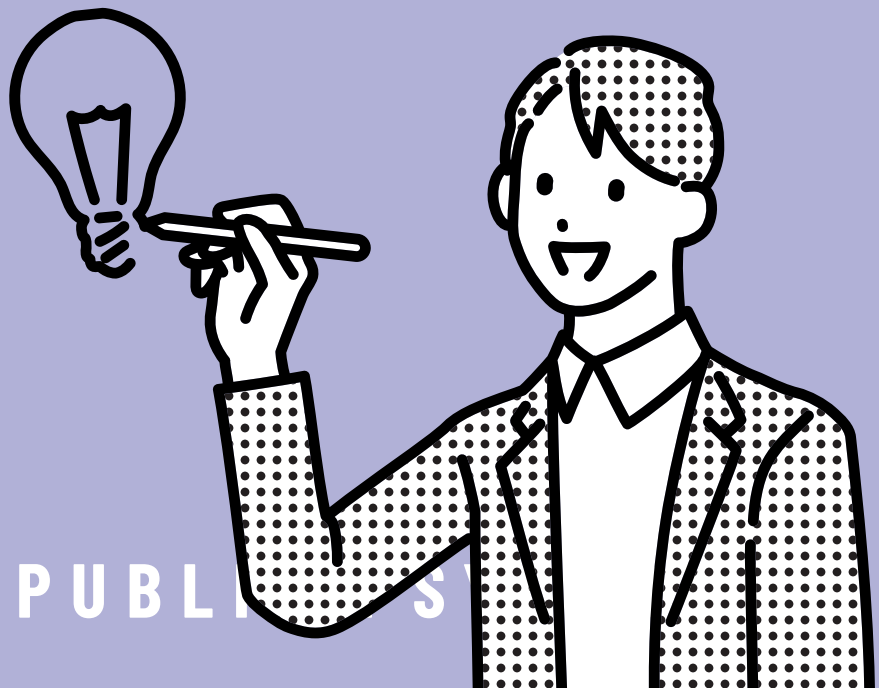
私たちは今、4年目の「講習会前夜」に立っています。次回の講習会に向けて、これまでと同様に、準備の段階から対話と協働を重ね、よりよい学びを届けるための歩みを進めていきます。



4

CHAPTER

公認心理師の 未来に向けて



CERTIFIED PUBLIC PSYCHOLOGIST

CHAPTER

4

公認心理師の 未来に向けて

講習会と公認心理師全体の発展

講習会では、「後進の育成・養成こそが心理業界の発展に直結する」というメッセージを繰り返し伝えていきます。一見すると、個人の育成と業界全体の発展は結びつきにくいように思えるかもしれませんが。しかし実際には、「人を育てること」と「業界が発展すること」は深くつながっています。

その要となるのが、世代を超えた技術や経験の継承です。先輩たちが培ってきた知恵を大切な財産として次世代へ継承し、若い力が十分に発揮できるよう支えていく。そうして、育った人材がさらに次の世代を育てていく——。このような「人を育てる循環」こそが、業界全体を押し上げる原動力となります。

こうした考えに基づき、講習会では、担当教員と現場指導者が合同で実施する科目の締めくくりとして、「公認心理師全体の発展のために、個人および全体として取り組めることを考える」というテーマのもと、グループディスカッションを行っています。

そこでは、以下のような意識の変化や、業界発展のために考えうるその他の行動案が数多く挙げられました。

受講生の声



受講生

公認心理師を目指してくれる高校生が増えるよう、やりがいや魅力を伝えていきたい



受講生

講習会で終わらず、地域レベルで心理が集まり、発展に向けて何ができるかを話し合う機会を継続して持ちたい。



受講生

まずは職場の多職種に心理職の役割や専門性をもっと知ってもらうことから始めたい



受講生

関連団体が連携し、心理職の有効性を示すデータを発信していく必要がある



受講生

学生に知識・技能を教えるだけでなく、生き生きと仕事をしている姿も見せていきたい



受講生

別領域で働く心理同士が交流する場があると業界のまとまりが生まれそう

さらに、受講者の意識の変化を把握するため、事前・事後アンケートでは、「後進の育成・養成に関わっていきいたいと思うか」「公認心理師全体の発展や成長に向けて、自分にできる役割を担っていきいたいと思うか」という質問項目を設定しました(p.16 グラフ参照)。

結果として、どちらの項目においても、受講前と比べて受講後の肯定的回答の割合が上昇しました。このことから、本講習会を受講したことにより、後進育成や公認心理師全体の発展に主体的に関わっていかうとする意識が、一定程度高まった可能性が考えられます。

実習演習指導を通じた未来づくり

講習会で、ある講師が、「3人のレンガ積みの話」という有名な寓話を紹介しました。この話に登場する3人は、いずれも同じようにレンガを積んでいます。その目的の捉え方はそれぞれ異なっています。一人は「そうするように言われたから」、もう一人は「技術をみがくため」に、そして三人目は「大聖堂を建て、世の中を平和にするため」にレンガを積んでいます。つまり、同じ行為でも、何を見据えているかによって、その意味が大きく変わることを示しています。

レンガを積む行為が、ただの作業から大聖堂づくりへと意味を変えるように、実習演習指導もまた、個人のスキルアップを超えて職種全体の発展につながっていると気づいたとき、講習会での学びは少し違った重みを持ちはじめます。今後、本講習会を通して生じた受講者一人ひとりの意識の変化が、次の誰かへと共有され、熱意をもってつながっていくことで、公認心理師の未来が少しずつ形づくられていくことを期待しています。





公認心理師のさらなる発展には、「資質向上」「制度推進」の両輪による成長が不可欠です。関係団体が ONE TEAMとして強固な基盤を形成し、現場の知見を次世代の養成へと還元する循環を確立することが、専門職としての信頼を確かなものにします。これからも団結して、ともに成長していきましょう。

おわりに

3回目の講習会は、これまで同様に、本当にたくさんの方々のお力添えにより実施することができました。まずは、日本公認心理師協会、公認心理師の会、日本公認心理師養成機関連盟、公認心理師養成大学教員連絡協議会、日本心理臨床学会、日本心理学会の皆さまに心より感謝申し上げます。心理の関連団体の先生方が一堂に会し、さまざまな立場や視点を集約しながら企画運営を続けてきたということそのものが、回を重ねる中でますます大きな価値を生み出していることを実感します。

今回の講習会では、各講師の先生方に若手の教員・指導者向けのおすすめ書籍を募り、会場に閲覧コーナーを設けて休憩時間のスライドで紹介するといった試みをしました。真面目な本だけでなく、絵本や漫画なども息抜きとしてご紹介したのですが、私たちの仕事には、ちょっとした遊び心や心のゆとりも必要です。講師の先生におかれましては、長丁場の講義にユーモアを交え、笑い声や笑顔があふれる時間を作ってください、本当にどうもありがとうございました。

今回ご参加くださった1019名の公認心理師の先生方にもお礼を申し上げます。講習会の場やアンケート等を通じて寄せてくださったご意見は、今後の講習会を作り上げていくにあたってのかけがえない財産となります。そして、講習会の運営にずっと伴走し、有形無形のサポートをしてくださった株式会社浜銀総合研究所の皆さま、特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センターの皆さま、厚生労働省公認心理師制度推進室の皆さまにも深く感謝申し上げます。

これからも講習会を通して公認心理師全体の魅力が増していくことを、そのための一端を先生方と一緒に担っていけることを願っています。

今回の講習会で生まれたたくさんのつながりと思いが、この先も続いていきますように。

令和8年(2026)年3月

国立精神・神経医療研究センター病院 臨床心理部 事業担当者一同

〈協力団体〉



公益社団法人
日本公認心理師協会

一般社団法人 公認心理師の会®
Japanese Society of Certified Public Psychologist

一般社団法人 日本公認心理師養成機関連盟
Japanese Federation of the Training Institutions for Certified Public Psychologists: JFTCPP

公認心理師養成大学教員連絡協議会 (公大協)



一般社団法人
日本心理臨床学会



公益社団法人 日本心理学会
The Japanese Psychological Association



主催・講習会事務局 / 国立精神・神経医療研究センター病院



厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 公認心理師制度推進室

CHAPTER

參考資料

CERTIFIED PUBLIC PSYCHOLOGIST

〈参考資料〉

段階別到達目標整理表

1 公認心理師としての態度		
1-1 公認心理師としての倫理性を理解し実践する		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
1-1-1 公認心理師の職責及び倫理を知る a. 公認心理師の役割を知る b. 公認心理師の法的義務と専門職としての倫理を知る c. 基本的な人権意識を身に付ける d. 個人情報の保護と情報共有の重要性を知る e. 中立的立場を保持することの重要性を知る	1-1-1 公認心理師の職責及び倫理を体験的に理解する a. 公認心理師の役割を理解する b. 公認心理師の法的義務を理解し専門職としての倫理を身に付ける c. 人権意識を持つことの重要性を理解し、要支援者の立場に立つことができる d. 個人情報の保護と情報共有の重要性を実践を通じて理解する e. 中立的な立場を保持することの重要性を実践を通じて理解する	1-1-1 公認心理師の職責と倫理を理解しその姿勢を持って実践する a. 公認心理師の法的義務を理解し職業倫理を身に付け実践する b. 人権意識をもって要支援者の立場に立ち、その方の安全を最優先し必要に応じて命を守る行動をとれる c. 守秘義務を遵守し必要な情報を適切に共有する d. 利益相反を理解し中立的な立場を保持する
1-2 反省的実践を行い資質向上に努める		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
1-2-1 自己理解を深める意義と方法を理解する a. 自分自身を見つめ直す覚悟や時間を持つ b. 自己理解を深めるための方法(スーパービジョン等)を知る 1-2-2 自ら課題を見出し主体的に学ぶ姿勢を身に付ける a. 自分自身の疑問や違和感を察知し言語化して伝えることの重要性を理解する b. 自発的に質問したり学ぶ姿勢を身に付ける c. 状況に合わせて柔軟に学ぶ重要性を知る	1-2-1 自分自身のあり方を内省し自己理解を深める a. 自分自身の葛藤や課題の理解を深める b. 自分自身の葛藤や課題の背景にある自分自身の歴史を振り返り、そこから支援に活用できるリソースを見出す 1-2-2 反省的実践を深めるための方法を理解する a. 実習等における継続的なケースや面接を通じて反省的実践の実際を理解する b. 個人・グループスーパービジョンを受けその意義や目的を理解する 1-2-3 自ら課題を見出し主体的に学び課題を解決する姿勢を身に付ける a. 自分自身の疑問や違和感を敏感に察知し、言語化して伝える b. 自分自身が出来たこと・出来なかったことを自覚・反省する c. 自分自身が出来ないことをできるようにするために何が必要かを考える d. 困った時やわからない時に率直に好奇心をもって質問できる e. 自己学習・自己研鑽を続ける方法を身に付ける f. 状況に合わせて柔軟に学ぶことができる 1-2-4 セルフケアの重要性を理解しその方法を身に付ける a. 自分自身に適したセルフケアの方法や資源を理解する	1-2-1 自分自身のあり方を内省し自分自身を客観的に振り返ることができる a. 自分自身の未解決な課題や葛藤を客観的に振り返ることができる b. 自分自身のマイナスの感情を冷静に扱うことができる 1-2-2 反省的実践を深めることができる a. 個人・グループスーパービジョンを受ける b. 事例検討会に事例を提供する c. 公認心理師同士の議論の場に参加する 1-2-3 セルフケアを実践する a. セルフケアの方法や資源を複数持ち活用できる b. 公認心理師同士の横のつながりを作る
1-3 要支援者等との関係性を構築する		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
1-3-1 要支援者と向き合う基本姿勢を理解する a. 様々な人と関わるうえでの基本姿勢を理解する(相手に合わせる、相手に関心を持つ、労う等) b. 要支援者が多様な価値観を持つことを理解する c. 要支援者のみでなく関係者や生活環境まで捉えることの重要性を知る 1-3-2 他職種の役割を知る a. 様々な分野・領域における他職種の役割を知る b. 他職種の業務を知る	1-3-1 要支援者と向き合う基本姿勢を身に付ける a. カウンセリングの基本的態度(受容、共感的理解、誠実さ等)を身に付ける b. 要支援者と関わる際に自分自身の中で起こる反応に落ち着いて対処できる c. 要支援者の前に支援者としてあり続けられる 1-3-2 具体的な支援場面において要支援者と接し、要支援者を多面的に理解する a. 実習等を通じて具体的な支援場面では要支援者と接する b. 要支援者を多面的・全体的に理解する c. 要支援者のみでなく関係者や生活環境まで捉えることの重要性を実践を通じて理解する 1-3-3 他職種を尊重する態度を身に付ける a. 他職種の役割や価値観、教育的背景を理解する b. 他職種の業務を理解する c. 実習等において他職種のスタッフとも交流を図れる	1-3-1 カウンセリングの基本的態度をもって実践する a. カウンセリングの基本的態度(受容・共感的理解・誠実さ等)で要支援者と接することができる b. 要支援者と同じ地平に立って傾聴ができる 1-3-2 要支援者の課題解決や成長に向けた対応ができる a. 本人の意思を適切に確認することができる b. 動機づけを促すことができる c. 必要に応じて適切に心理教育を行いながら関わりができる 1-3-3 複雑な課題があるケースにおいても要支援者と関係を作れる a. 複雑な課題(通常の方法では対応が困難等)があるケースにおいても要支援者と関係を作ることができる 1-3-4 組織の文化や他職種を尊重する a. 他職種の役割や価値観、教育的背景を理解して接することができる b. 所属している組織の文化を尊重する姿勢を持てる c. 関係する他職種に敬意をもって接することができる 1-3-5 関係者同士の利害対立を調整できる a. 関係者同士(組織と個人、組織と組織、個人と個人)の利害を調整することができる

〈参考資料〉

1-4 エビデンスに基づき実践する		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>1-4-1 心理学の基礎知識を身に付ける</p> <p>a. 心理学の基礎知識を幅広く身に付ける</p> <p>b. 心理支援に関する理論の概要を知る</p> <p>1-4-2 心理支援の有効性と妥当性をエビデンスや心理学理論の視点から理解する</p> <p>a. エビデンスに基づく実践の重要性を理解する</p> <p>b. データに基づいて実証的に考え根拠に基づいて説明する重要性を理解する</p> <p>c. 既知の理論や概念を批判的に見直す重要性を理解する</p>	<p>1-4-1 心理学の実践的知識を身に付ける</p> <p>a. 幅広く臨床心理学や心理支援の理論・方法を身に付ける</p> <p>b. 専門としたい分野・領域で求められる知識を身に付ける</p> <p>c. 代表的な心理支援の理論について、長所と短所を説明できる</p> <p>1-4-2 心理支援の有効性と妥当性をエビデンスや心理学理論の視点から理解し実践に適用できる</p> <p>a. データを用いて実証的に考え説明することができる</p> <p>b. 既知の理論や概念を批判的に見直す視点を持っている</p> <p>c. 主要な臨床症状への支援法として推奨される介入法についてのエビデンスや診断ガイドライン等を説明できる</p> <p>d. 心理支援の効果を客観的な指標を用いて評価する方法を学ぶ</p> <p>e. 実習等を通じて、心理実践を科学的・批判的に見直すことの実践を理解する</p>	<p>1-4-1 常に知識をアップデートして実践に結び付け専門職としての説明責任を果たすことができる</p> <p>a. 学会や研修会への参加や書籍・文献を通じて知識を得、その専門性をもとに実践する</p> <p>b. 現場や要支援者のニーズに即して学んだことを柔軟にカスタマイズできる</p> <p>c. 臨床実践のプランニングにおいて、関連する臨床試験のエビデンスや診断ガイドライン等を活用できる</p> <p>1-4-2 実践と研究を結び付けることができる</p> <p>a. 自らの心理実践の有効性について客観的な指標を用いて評価し、その結果を反省的に活用し、資質・技能の向上に活かすことができる</p>
2 公認心理師としての専門技能		
2-1 心理アセスメントを行い支援計画を作る		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>2-1-1 心理アセスメントの基本的知識を身に付ける</p> <p>a. 心理アセスメントの種類とその特徴及び限界の概要を知る</p> <p>b. 心理アセスメントに関する理論と方法の概要を知る</p> <p>c. 心理アセスメントに有用な情報とその把握方法の概要を知る</p> <p>d. 心理アセスメントの基本姿勢、倫理的配慮の概要を知る</p> <p>2-1-2 アセスメント結果を表現する文章能力を身に付ける</p> <p>a. 記録や検査所見、報告書を適切に作成するための文章能力を身に付ける</p> <p>b. 記録や検査所見、報告書に求められるポイントを知る</p>	<p>2-1-1 心理アセスメントの実践的方法を理解し身に付ける</p> <p>a. 心理アセスメントの種類とその特徴及び限界を説明できる</p> <p>b. 心理アセスメントに関する理論と方法を理解する</p> <p>c. 心理アセスメントに有用な情報とその把握方法を理解する</p> <p>d. 心理アセスメントの基本姿勢や倫理的配慮を身に付ける</p> <p>e. 心理アセスメントの手続き・段階を具体的に理解する</p> <p>2-1-2 実習等を通じて関与観察を身に付ける</p> <p>a. 関与観察に必要な基礎知識を身に付け説明できる</p> <p>b. 関与観察を実施する</p> <p>c. 関与しながら観察してラポールを形成する重要性を理解する</p> <p>2-1-3 実習等を通じて心理検査を身に付ける</p> <p>a. 心理検査に必要な正しい基礎知識を身に付け説明できる</p> <p>b. 心理検査を実施できる(例:知能検査、パーソナリティに関する諸検査、症状評価に関する諸検査)</p> <p>c. 要支援者の状況に応じて心理検査を組み合わせることを理解する</p> <p>d. 心理検査の結果を解釈することができる</p> <p>2-1-4 実習等を通じて面接法を身に付ける</p> <p>a. 初診・インテークに必要な正しい基礎知識を身に付け説明できる</p> <p>b. 面接をしながら見立て、見立てたものを伝え返ししながらアセスメントをする</p> <p>2-1-5 様々なアセスメント結果をふまえて適切な概念化・定式化を行い指導を受けながら支援計画を作成する</p> <p>a. 具体的な体験や支援を専門知識及び理論に基づき概念化し説明できる</p> <p>b. 適切に記録、報告、振り返り等を行う文章能力・表現能力を身に付ける</p> <p>c. 様々なアセスメントをふまえて包括的な解釈を行う重要性を理解する</p> <p>d. アセスメント結果をふまえて適切な支援計画を作成することの重要性を理解する</p> <p>e. アセスメント結果を相手に合わせてわかりやすく説明することの重要性を理解する</p>	<p>2-1-1 関与観察を活用できる</p> <p>a. 要支援者に関わりながら観察できる</p> <p>b. 現場の人間関係の力動を観察できる</p> <p>c. 観察結果を適切に記録できる</p> <p>2-1-2 心理検査を活用できる</p> <p>a. 要支援者に応じた適切な検査法を提案できる</p> <p>b. 複雑なテストバッテリーを提案できる</p> <p>c. 検査結果を適切に解釈し所見を書くことができる</p> <p>2-1-3 面接法を活用できる</p> <p>a. 適切な面接の構造を作れる</p> <p>b. 効果的な面接を実施できる</p> <p>c. 面接結果を適切に記録・報告できる</p> <p>2-1-4 組織のアセスメントができる</p> <p>a. 対象となる組織の部門間・部門内の力動を理解できる</p> <p>b. 2-1-5 包括的にアセスメントを行い適切な概念化・定式化に基づいた対応方針を提示できる</p> <p>c. 様々なアセスメントをふまえて包括的な解釈ができる</p> <p>d. アセスメント結果をふまえて適切な支援計画を作成・提案できる</p> <p>e. アセスメント結果を相手に合わせてわかりやすく説明することができる</p>

〈参考資料〉

2-2 心理支援・心理的介入を行う		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>2-2-1 心理支援の基本的知識を身に付ける</p> <p>a. 様々な心理療法の理論や方法を学びその共通点や相違点、限界等を体験的に理解する(例:クライアント中心療法に基づく傾聴、認知行動療法の技法、精神分析の治療構造の知識、家族療法の技法等)</p> <p>b. 訪問による支援や地域支援の重要性を知る</p> <p>c. 要支援者に最適な心理支援の手法を選択することの重要性を知る</p> <p>d. 要支援者のプライバシーに配慮することの重要性を知る</p>	<p>2-2-1 心理支援の実践的方法を理解し身に付ける</p> <p>a. 様々な心理療法の理論や方法を学びその共通点や相違点、限界等を体験的に理解する(例:クライアント中心療法に基づく傾聴、認知行動療法の技法、精神分析の治療構造の知識、家族療法の技法等)</p> <p>b. 訪問による支援や地域支援の重要性を理解する</p> <p>c. 要支援者に最適な心理支援の方法を選択することの重要性を理解する</p> <p>d. 要支援者のプライバシーに配慮することの重要性を理解する</p> <p>e. 合同面接の技術を身に付ける</p> <p>f. 指導を受けながら、インタークから継続面接実施までの流れを理解する</p> <p>2-2-2 集団プログラムの運営方法を身に付ける</p> <p>a. グループアプローチの理論や方法を理解する</p> <p>b. グループダイナミクスを活用した集団プログラムの運営方法を理解する</p> <p>c. 集団プログラムのファシリテーション方法を身に付ける</p> <p>2-2-3 ケースマネジメントの方法を身に付ける</p> <p>a. 複雑な関係性の中でのケースマネジメントの方法と重要性を理解する</p>	<p>2-2-1 心理支援を効果的に行う</p> <p>a. 専門分野・領域において採用される標準的な支援方法を理解している</p> <p>b. 要支援者に最適な心理支援の方法を根拠をもって選択し効果的に適用する</p> <p>c. 選択した支援方法について、その理論的意義やエビデンスをわかりやすく説明することができる</p> <p>d. 日常場面を活かした心理支援を行える</p> <p>e. 複雑な判断を要するケースや状況においても効果的に心理支援を行える</p> <p>2-2-2 集団療法を主導する</p> <p>a. 集団プログラムを主導し、必要に応じて他職種に役割を提案できる</p> <p>b. プログラムに必要な修正を施すことができる</p> <p>c. 新しい集団プログラムの導入を提案できる</p> <p>2-2-3 ケースマネジメントを担う</p> <p>a. 支援計画の立案・実行を費用対効果を意識してマネジメントできる</p> <p>b. 関係者との必要な調整・交渉ができる</p> <p>c. 連携する社会資源に関する知識があり、必要に応じてリファーできる</p> <p>d. 起こりうるリスクに気づき回避行動がとれる</p> <p>e. ケースの予後を見据えることができる</p> <p>f. 複雑な判断を要するケースや状況においても適切に対応できる</p> <p>g. 心理支援の効果を、時宜を見て検証できる</p>
2-3 関係者支援を行う		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>2-3-1 関係者支援の基本的知識を身に付ける</p> <p>a. 分野・領域ごとの関係者の概要を知る</p> <p>b. 家族や集団の関係性をアセスメントするための理論や方法を知る</p> <p>c. 家族や集団の関係者への支援を行うための理論や方法を知る</p>	<p>2-3-1 関係者支援の実践的方法を理解し身に付ける</p> <p>a. 分野・領域ごとの関係者を実習等を通じて理解する</p> <p>b. 家族や集団の関係性をアセスメントするための実践的方法を身に付ける</p> <p>c. 家族や集団の関係性への支援を行うための実践的方法を身に付ける</p> <p>d. 実際のコンサルテーションがどう行われているかを知る</p>	<p>2-3-1 アセスメントに基づき専門的なコンサルテーションを実施する</p> <p>a. 家族、地域社会、集団・組織のアセスメントを行い支援計画を作成できる</p> <p>b. 要支援者の家族・関係者・環境への支援を適切に実施できる</p>
2-4 心の健康教育を行う		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>2-4-1 心の健康教育の基本的知識を身に付ける</p> <p>a. 健康教育や健康増進に関する理論と方法の概要を知る</p> <p>b. 適切な健康情報の探索方法を知る</p> <p>c. 心の健康教育の実践的方法を知る</p> <p>d. 一般の方にわかりやすい資料作成の重要性を知る</p>	<p>2-4-1 心の健康教育の実践的方法を理解し身に付ける</p> <p>a. 健康教育や健康増進に関する理論と方法を理解する</p> <p>b. 適切な健康情報を探索できる</p> <p>c. 心の健康教育の実践的方法を身に付ける</p> <p>d. 一般の方にもわかりやすい資料の作成方法を身に付ける</p>	<p>2-4-1 心の健康教育を自ら実践し、企画運営することができる</p> <p>a. 地域や社会、組織のニーズに即して心の健康教育を企画・提案できる</p> <p>b. 一般の方にわかりやすい心の健康教育資料を作成できる</p> <p>c. 一般の方にわかりやすい心の健康教育を自ら実践できる</p> <p>d. 心の健康教育について適切な運営ができる</p>

〈参考資料〉

3 組織性と学際性		
3-1 組織における役割を遂行する		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>3-1-1 社会常識・マナーを身に付ける</p> <p>a. 一般的なコミュニケーション能力を身に付ける</p> <p>b. 基本的な社会常識やマナー(挨拶、身だしなみ、立ち居振る舞い、報連相等)を身に付ける</p> <p>c. 要支援者や職員に対する礼節を身に付ける</p> <p>3-1-2 様々な分野・領域の臨床現場と業務関連知識を知る</p> <p>a. 各分野・領域の公認心理師の活動内容を知る</p> <p>b. 要支援者や関係者の臨床現場における姿を知る</p> <p>c. 各分野・領域における法制度の概要を理解する</p> <p>d. 法令や組織の内規に合わせた記録の取り扱いの必要性を知る</p>	<p>3-1-1 社会常識・マナーをふまえた行動をとれる</p> <p>a. 社会人としての常識やマナーを身に付け実践できる</p> <p>b. 各分野・領域の施設で求められる基本的マナーを知る(例:医療施設での感染対策)</p> <p>c. 労働者としての意識を身に付ける(例:自分の給与が発生する仕組みや背景制度を知る)</p> <p>d. 要支援者や職員に対する礼節をわきまえた態度・行動をとれる</p> <p>3-1-2 様々な分野・領域の臨床現場と業務関連知識の理解を深める</p> <p>a. 様々な分野・領域の現場を見聞きし理解を深める</p> <p>b. 現場の公認心理師の働く姿を見て自身のキャリアをイメージする</p> <p>c. 各分野・領域における法制度を理解する</p> <p>d. 法令や組織の実状に合わせた記録の取り扱い方法を知る</p>	<p>3-1-1 社会常識・マナーを指導できる</p> <p>a. 社会人としての常識やマナーをもって行動する</p> <p>b. 社会人としての常識やマナーについて後輩を指導する</p> <p>3-1-2 分野・領域特有の業務知識を身に付けている</p> <p>a. 専門とする分野・領域と関連した心理社会的な動向や課題を把握している</p> <p>b. 専門とする分野・領域固有の法制度を理解し実践する</p> <p>c. 関連する分野・領域の法制度を理解し実践する</p> <p>d. 法令や組織の実情に合わせて記録を取り扱い、後輩を指導する</p> <p>3-1-3 組織内での責任を果たし必要に応じて新たな業務を生み出す</p> <p>a. 組織の経営方針を理解し所属セクションの現状(機能している部分としていない部分)を把握している</p> <p>b. 所属セクションの心理職が実施すべき業務を中長期的に計画する</p> <p>c. 所属セクションの多職種チームをまとめ、その業務に責任を持つ</p> <p>d. 必要に応じて組織内のメンタルヘルスについて関与する</p> <p>e. 組織全体に心理職の活動を周知・広報する</p> <p>3-1-4 所属組織の地域・社会における役割を理解する</p> <p>a. 所属組織が地域社会で期待されている役割を理解する</p>
3-2 連携・協働による支援体制を作る		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>3-2-1 多職種連携の基本的知識を身に付ける</p> <p>a. 多職種連携の必要性和意義を理解する</p> <p>b. 様々な分野・領域において連携する他職種の役割や業務を知る</p> <p>c. 多職種連携における公認心理師の役割を理解する</p>	<p>3-2-1 実習等を通じて多職種連携の具体的なノウハウを体験的に学ぶ</p> <p>a. 他職種から信頼を得る重要性と方法を理解する</p> <p>b. 多職種チームにおける関係者の役割分担と公認心理師の役割を理解する</p> <p>c. 一連の業務において様々な職種がどのように関わるかを知っている</p> <p>d. ケース担当を通じて、必要な機関へつなぐ経験をし、連携の基礎を知る</p> <p>e. 円滑な連携のために必要とされる具体的なノウハウを学ぶ</p> <p>3-2-2 他職種に公認心理師の役割を説明できる</p> <p>a. 他職種に公認心理師の専門業務を説明できる言語能力を身に付ける</p> <p>b. 多職種連携の中での公認心理師の役割や特徴、強みに気がつく</p> <p>c. 他職種に心理職の仕事の説明ができる</p> <p>d. 他職種にもわかりやすく記録を取れる</p>	<p>3-2-1 他職種と良好な関係を築き多職種チームに貢献する</p> <p>a. 専門職としてのアイデンティティを確立しながら、職場のスタッフとしての信頼を得る</p> <p>b. ケースに応じて適切な関係者・関係機関との連携を提案・調整できる</p> <p>c. 多職種チームのマネジメントに関与する(時間軸を意識した業務の洗い出しと役割分担等)</p> <p>3-2-2 他職種に対して共通言語でわかりやすく伝えられる</p> <p>a. 公認心理師の役割と意義を伝え理解を得られる</p> <p>b. 公認心理師としての見解を、本質を曲げることなく共通言語で伝えられる</p> <p>c. 連携機関や他職種の立場をふまえ必要な情報を伝えられる</p>
4 教育・研究能力		
4-1 後進を育成する(指導とスーパーバイズ)		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>4-1-1 公認心理師の養成の概要を知る</p> <p>a. 養成課程における学部教育の位置づけを知る</p> <p>b. 学部生に求められる到達目標を知る</p>	<p>4-1-1 公認心理師養成の実践的方法を理解する</p> <p>a. 養成課程における大学院教育の位置づけを理解する</p> <p>b. 大学院生に求められる到達目標を知る</p> <p>c. 実習等を通じて公認心理師養成の実践的方法を理解する</p>	<p>4-1-1 後輩の育成・指導に関与する</p> <p>a. 後輩公認心理師の業務についてスーパービジョンを担う</p> <p>b. 後輩公認心理師の育成・指導に関与する</p> <p>4-1-2 学生の実習(心理実習・心理実践実習)に関与する</p> <p>a. 公認心理師養成課程における実習演習の位置づけを理解している</p> <p>b. 実習の企画・運営に関与する</p> <p>c. 実習の実施・管理体制の整備に関与する</p> <p>d. 学生の学習支援に求められる技能・姿勢を理解している</p>
4-2 研究活動に関与する		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>4-2-1 研究方法の基本を知る</p> <p>a. 研究作法の基礎を学ぶ</p> <p>b. 研究手法(統計分析手法、実験手法等)を知る</p>	<p>4-2-1 研究方法の基本を身に付ける</p> <p>a. 研究方法(研究計画の立案、実査、統計解析スキル等)を理解している</p> <p>b. 特定の心理支援の方法に関するエビデンスを構築するための臨床試験の方法を学ぶ</p> <p>c. 自分の研究を発展させる</p> <p>4-2-2 正しく調べる方法を身に付ける</p> <p>a. 必要に応じて、適切な文献や資料を調べる</p> <p>b. 研究論文を読み、内容を理解する</p>	<p>4-2-1 臨床研究を実践する</p> <p>a. 臨床現場での経験から仮説を設定し研究を行い臨床心理学におけるエビデンス構築に貢献する</p>

出典:厚生労働省令和4年度障害者総合福祉推進事業「公認心理師の多様な活躍につながる人材育成の在り方に資する調査」報告書(株式会社浜銀総合研究所)



公認心理師

実習演習担当教員及び
実習指導者養成講習会

令和7年度厚生労働省事業
公認心理師実習演習担当教員及び
実習指導者養成講習会

2025
レポート



2026年3月

国立精神・神経医療研究センター病院 臨床心理部

CERTIFIED PUBLIC PSYCHOLOGIST